

# 庭の無限を見つめる

## THE INFINITY OF THE GARDEN

庭は、古来より自然を慈しみ、その空間に自然の豊かさや美しさを再現してきました。  
ただ写しとるだけでなく、各々の時代の歴史や文化を反映させながら、  
芸術の域にも達する世界に昇華させて表現してきたのです。  
自然と人工の調和から生まれる庭には、無限の可能性が秘められています。  
連綿と継承されてきた伝統と進化を支える革新の融合は、歩みを止めません。  
私たちの視線の先には、いつも庭の未来が映っています。



- お車をご利用の場合／東名高速道路 小牧インター北 村中交差点を東へ直進
- 電車をご利用の場合／最寄駅 名鉄小牧線 小牧原駅下車 徒歩約9分(約750m)

### 株式会社竹藤商店

〒485-0012 愛知県小牧市小牧原新田1622  
TEL : 0568-77-2321 FAX : 0568-77-0117  
e-mail : info@zouenshizaikan.jp

<https://www.zouenshizaikan.jp>

造園資材館 検索



TTK 株式会社竹藤商店  
Taketo Shoten Co., Ltd.

# CORPORATE PROFILE

造園家の皆様をつなぐ「架け橋」を目指して



「人と自然が響和する豊かな社会」の実現を目指して



皆さまこんにちは。  
株式会社竹藤商店 代表取締役の秦野利基です。

私たちは、「引き継がれる伝統文化 時代を超える創造性 私たちはすべての造園家の代わりに、たゆまぬ努力と信頼でお応えし、人と自然が響和する豊かな社会を実現します」を経営理念とし、造園家の皆様に、様々な造園材料の提供と、造園技術の継承をお手伝いしている会社です。

造園家の作る庭。日本では、鎌倉時代に編纂された「作庭記」までさかのぼります。安土桃山時代の茶の湯文化、江戸時代の大名庭園、豪商庭園を経て、高度成長期には個人の庭園ブームが起こりました。さらに海外から伝わった様々なガーデンスタイルが融合し、個人庭、集合住宅、公共空間、都市空間を彩る、人の生活に欠かせない「文化」として発展してきました。私たちは、そんな伝統文化の継承と創造にかかわる仕事をしています。

原点は、大正元年に創業した「竹屋」。創業者が地元で採れる選りすぐりの竹材を籬屋さんや建築屋さん造園屋さんに供給していたことに始まります。時代の変遷に伴い、利便性の高い新素材が登場。竹材も使われる場面が少なくなってきましたが、現在も建築用・造園用の竹材を供給し続けるとともに、特に造園用資材の展開に力を入れ、日本でも有数の「造園用石材のサプライヤー」として庭文化の継承と創造に貢献しています。

近年、会社のブランドとして「造園資材館」、「マテリア」を立ち上げ、人と人のつながり、人と自然のつながりを大切にしたい世界観を「人と自然の響和」と表現し、造園家・建築家が集い、心地よい住環境・暮らしを共につくっていただけるプラットフォームの実現を目指した企業活動を行っています。

経営理念

引き継がれる伝統文化 時代を超える創造性  
私たちは、すべての造園家の代わりに、たゆまぬ努力と信頼でお応えし、人と自然が響和する豊かな社会の実現に貢献します。

事業方針

お客様のこだわりに応える  
取引先とのコミュニケーションを密にはかり、当社の持つ国内外のネットワークを上げ、すべてのお客様の「こだわり」に応えられるよう努力します。

魅力ある店舗づくり

常にお客様の視点に立った品揃えを心掛け、より良く見える・選びやすい・創造力を刺激する店舗をつくります。また、日頃の整理整頓を心がけ、業務効率の高い店舗をつくります。

事業価値の向上

お客様の利益を最優先に考え、常に期待を上回る価値を創造することにより事業価値を高め、将来の継続発展と社員の福利厚生を向上を目指します。

会社概要

会社名 株式会社 竹藤商店  
所在地 愛知県小牧市小牧原新田1622番地  
TEL:0568-77-2321(代) FAX:0568-77-0117  
E-mail info@zouenshizaikan.jp  
HP https://www.zouenshizaikan.jp  
営業時間 AM8:00~PM5:00  
休日 日曜・祝日・第2・4土曜日  
創業 大正元年  
代表取締役 秦野 利基  
資本金 1,000万円  
従業員数 21名  
資材置場敷地 13,000平米  
取扱品目 造園用石材・建築用石材・竹及び竹垣・レンガ・ガラスブロック・エクステリア製品・その他造園緑化資材  
業務内容 各種造園緑化資材の卸売り  
緑化相談及びセミナーの開催  
各種関連展示会への出展及び協力  
仕入先 国内各種製造業者及び資材販売代理店、中国、フィリピン、インドネシア、インド、ドイツ、イギリス、オーストラリア、イタリア、ブラジル、トルコ、フランス、ベルギー、アイルランド、アメリカ、ポルトガル、ギリシャ 他

沿革

大正元年 秦野藤十により愛知県春日井郡小牧町(現、愛知県小牧市)で創業。屋号は竹藤商店。  
昭和33年 オート三輪を導入。地元及び九州より原竹を仕入れ、愛知・岐阜を中心に卸売りを広げる。尾北竹材加工施設組合を結成。  
昭和40年 建築用竹材の需要が増大。全国のマダケが開花を迎え枯死したのを機に、台湾から建築用竹材の輸入を開始。  
昭和49年 現在地に移転。竹以外に、庭石・燈籠・肥料など造園材料を総合的に扱う「造園資材卸センター」を新装オープン。韓国から石材の輸入を開始。  
昭和54年 法人化。株式会社竹藤商店設立。敷地を2,000坪に拡張、新倉庫建設。愛知県竹材商組合会長就任。  
昭和60年 中国から竹材・石材の輸入を開始。愛知県の竹材業者で洋征会を結成。定期的に大量の割竹を台湾から輸入。全国に販路を拡げる。  
平成元年 仕入れ部門として株式会社藤藤通商を設立。  
平成5年 敷地を3,000坪に拡張。取扱商品の拡大。  
平成12年 事務所改築。敷地を3,500坪に拡張、新倉庫建設。イギリス産石材ほか新規商材の拡充を開始。お客様向けセミナールームを設置。講習会の開催。南米ほか、世界各地からの仕入れルートを拡大。  
平成15年 ベトナム御影石の輸入販売を開始。第2回GARDEXIに初出展。  
平成20年 インドに石材開発の合弁会社を設立。第1回EXTEPOIに出展。  
平成21年 新社屋建設。敷地を4,000坪に拡張、新倉庫建設。第2回EXTEPOIに出展。  
平成22年 配送サービスの開始。市内NPOとの協働により七夕まつりの竹を供給。第3回EXTEPOIに出展。  
平成23年 経営理念および方針を刷新。第4回EXTEPOIに出展。東京ビッグサイト建築建材展出展。  
平成24年 第42回建築総合展出展。  
平成25年 創業100周年記念講演及び感謝の会開催。  
平成26年 第9回GARDEXIに参加。総合カタログ『造園資材館』発刊。  
平成27年 RHSチェルシーフラワーショーに参加。シルバメダル受賞。情報誌『マイルストーン』発刊。  
平成28年 第18回国際バラとガーデニングショー・コンテスト部門出展。  
平成29年 第2回フレイエフラワーショー出展。  
平成30年 『造園資料室』を増築。  
平成31年 エクステリア×ガーデンエキシビジョン2019に出展。  
令和元年 造園資材の売買をサポート、フリマアプリ『マテリア』を開発。第1回関西工務店支援EXPO出展(9月) 第1回工務店支援EXPO出展(12月)  
令和二年 「健康経営優良法人2020(中小規模法人部門)」認定(3月)  
令和三年 「健康経営優良法人2021(中小規模法人部門)」認定(3月) 「健康宣言チャレンジ事業所」登録 「トモニ」に登録(仕事と介護を両立できる職場環境の整備・促進) 愛知県ファミリー・フレンドリー企業に登録  
令和四年 「健康経営優良法人2022(中小規模法人部門)」認定(3月) 「健康宣言チャレンジ事業所」登録 「トモニ」に登録(仕事と介護を両立できる職場環境の整備・促進) 愛知県ファミリー・フレンドリー企業に登録  
令和五年 展示場「マテリア」完成(4月)

SDGsへの具体的な取り組み目標

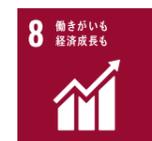
国連が2015年に定めたSDGs(2030年に向けた持続可能な開発目標)の17分野169ターゲットの目標に対し、関連性の深い6つの分野に対し、できる限りの配慮を持って事業を行うことを宣言します。



**1 貧困をなくそう**  
当社の取引先の中には、貧困を抱える途上国・地上地域も含まれています。産地の生産者の貧困を招かないフェアトレードの精神を持ち、購入価格の適正性を都度確認し、購入契約・生産・船積みまでを管理します。

すべての人に健康と福祉を

「健康経営優良法人2022年(中小規模法人部門)」の認定をいただきました。これは長年に渡り全社員に対する高度健康診断の受診と分煙対策が評価されたものです。今後も全社員に向けた健康増進のための情報発信を継続してまいります。



**8 働きがいも経済成長も**  
労働時間の短縮及び、時給賃金の上昇による賃金維持向上を図るとともに、有給休暇の資格奨励策をいち早く導入することで、仕事と生活の調和「ワークライフバランス」の取れた会社を目指します。

海の豊かさを守ろう

近年、生活に使われている樹脂製品が海洋を汚染し、多くの生態系に深刻な影響を与えています。当社の営業過程においても、商品を守る緩衝材の低減へつながるよう代替品の実現に向けて取り組みます。



**15 陸の豊かさを守ろう**  
当社では、正月飾りの門松竹や苗木用の短い支柱を製作する際に残る廃竹を、森林再生に取り組み造園家に竹炭用としてお渡しし、循環型社会の推進に貢献しています。

パートナーシップで目標を達成しよう

今後は、社会貢献活動の一環として地元で活躍する放置竹林の整備に取り組んでいる市民活動団体へ竹林の粉碎機を導入し無償で貸し出す計画をしています。また、本事業で生産された竹粉が、土壌改良や飼育の原料として循環型材料の安定的な生産に寄与します。

